

『頑張らない』 推進活動

～地域は資源の宝箱～

北海道千歳市

千歳病院認知症疾患医療センター 作田 直人

千歳市北区地域包括支援センター 吉田 肇



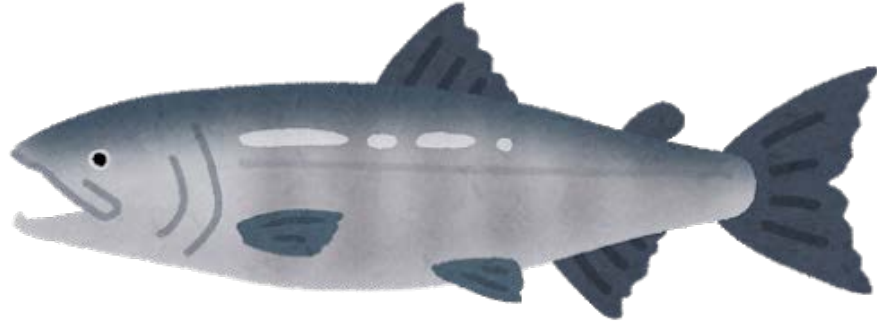
千歳市の概要

人口	96,119人	65歳以上人口	21,530人
高齢化率	22.4%	面積	594.5km ²
日常生活圏域数	5圏域	包括数	5カ所（委託5）
推進員数	2名（委託：精神保健福祉士1名、社会福祉士1名）		

- ・新千歳空港があり、北海道の「空の玄関口」として機能している。
- ・主要産業は新千歳空港の存在や支笏湖などの観光立地の関係からサービス業（産業別人口の約75%）、次いで製造業で製造品（出荷額道内4位）、大企業の工場が数多く存在している。
- ・人口の約25%が自衛隊員およびその関係者。
高齢化率が道内で最も低い。



(H30.4.1現在)



支笏湖エリア

支笏湖、オコタンベ湖、苔の洞門、巨木の森、野鳥の森、キャンプ場、恵庭岳、紋別岳、樽前山、風不死岳、支笏湖温泉、丸駒温泉などがあります。



空港・市街地エリア

新千歳空港、工業団地、自衛隊駐屯地、住宅地、商業施設、千歳科学技術大学などがあります。



泉沢向陽台
住宅地

農業地域エリア

観光牧場、観光農園、ファームレストラン、バレットの丘、ゴルフ場などがあります。



千歳市の認知症施策

いくつになっても自分らしく、元気で住み慣れた地域で支え合い、安心して暮らし続けることができる地域社会の実現



生きがいを持って生活できるまちづくり

いきいきと元気に生活できるまちづくり

安心して暮らせるまちづくり

- ①正しい知識の普及・啓発
- ②早期発見・早期対応の推進
- ③地域における見守りネットワークの推進



地域支援体制の機能強化

認知症施策の推進

生活支援体制の充実

権利擁護の推進

医療・介護体制の充実

介護予防の促進

高齢者の社会参加の推進



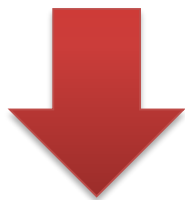
推進員の役割

千歳市ではH24年～、地域包括が順次増設

…H25年、北区地域包括支援センターを医療法人資生会に委託

千歳市：地域包括支援センター

北海道：認知症疾患医療センター



認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チームの委託



推進員① = 地域包括の社会福祉士・ケアマネジャー

推進員② = 認知症疾患医療センター・認知症初期集中支援チームの精神保健福祉士





活動報告

H28推進員研修後…



やらなきゃいけない事がたくさんあるのは分かった
何の活動から始めたら良いのだろうか??

まず市内の医療・介護・福祉の資源を見直してみよう!





以前より把握していた資源



新たに発見した資源



何か活動のヒントになることがある？

気をつけたところ

- ① とにかく『顔を出す』
- ② 『認知症に関係しそうな点』を探す
- ③ 『できると良さそうな事』を見つける

千歳市の社会資源（H28当時）



【1】 GH絆の会

経緯

○GH絆の会○

市内グループホーム（GH）・地域密着型だけでの研修会はしていたが、外とのつながりはなかった。

特にGHは医療機関との連携で苦慮していたが、突破口が見つからなかった。



**推進員が協力して医療機関との連携
や新規研修を実現しては？**

事業展開のイメージ

GH絆の会

外部とつ
ながる研
修がした
い

医療機関
との連携
で困って
いる

合同研修会

認知症関係の事
業所と何か連携
できない？



グループホームと疾患医療センター・初期集中・ 推進員の合同研修から始まり



1年かけて、市内の認知症に関する医療機関・事業所にまで対象が拡大

【2-1】 2市合同認知症啓発事業 映画上映会

経緯

○はまなすの会○

とある会員が、『妻の病』を見て「これこそ、認知症を知らない人たちに実情を知ってもらうための映画だ」と思ったが、間もなくガンで亡くなられてしまった。

亡くなる前に「住民向けに啓発として『妻の病』を上映して欲しい」と遺言を残されていた。

しかし、はまなすの会は、**どうやって実行していいか分からず開催ができていなかった。**

○推進員○

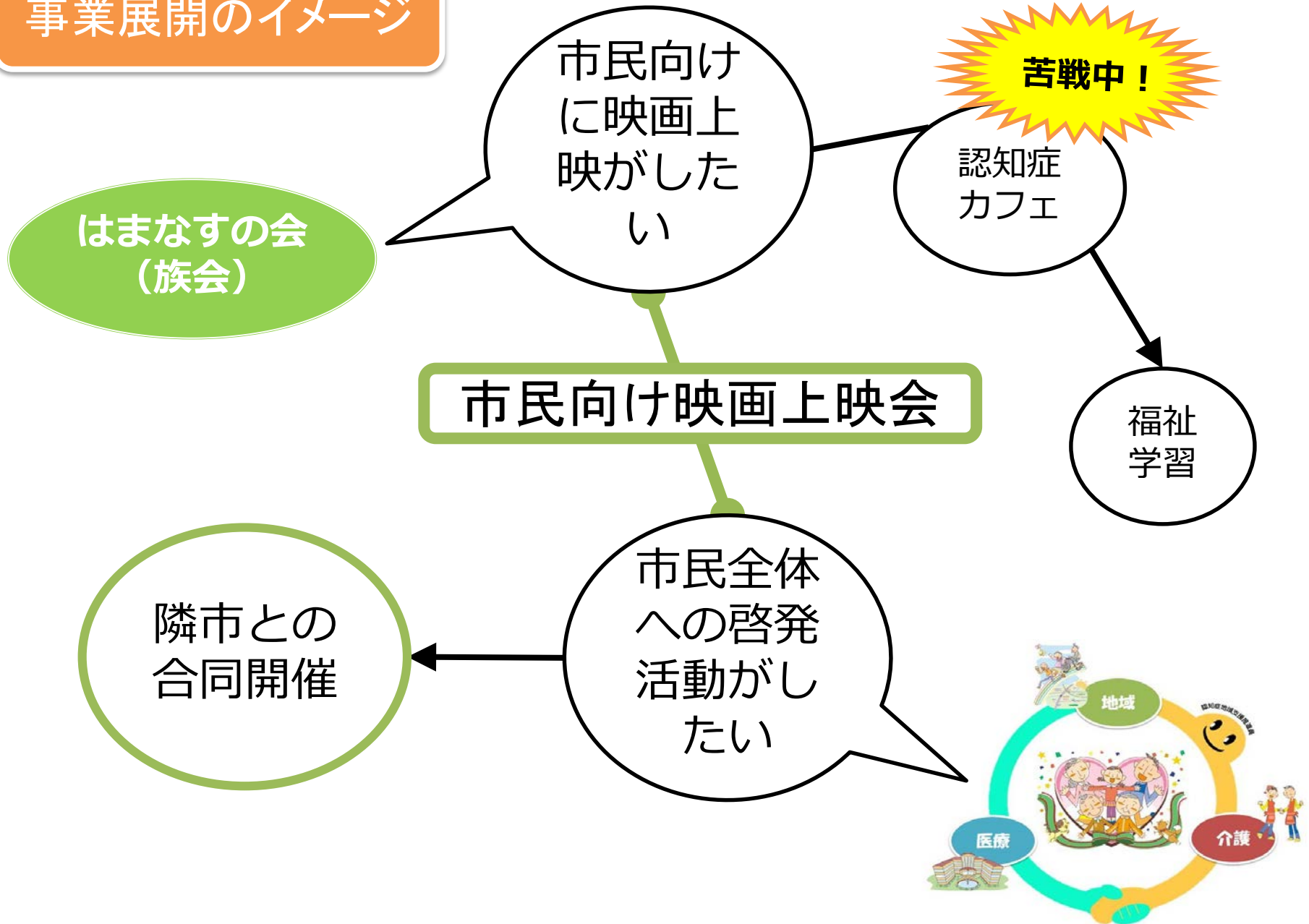
千歳市：専門職や小規模な住民向け講座などしていたが、多くの住民に認知症の実態を知ってもらおうような啓発事業をしたかったが**どんな形が良いか決めかねていた**（映画や当事者発表など）。

恵庭市：H29年にはじまったばかりで**何をすれば良いのかノウハウがなく、困っていた。**



はまなすの会のアイディアを推進員が協力して実現しては？

事業展開のイメージ





活動報告

・2市合同認知症啓発事業（映画上映会）



平成29年11月5日実施

会場は千歳市

「千歳市認知症地域支援推進員」
「千歳認知症の人を支える家族の会（はまなすの会）」
「恵庭市認知症地域支援推進員」
の3者で主催

月日	時間	内容	備考
8月	上旬~中旬	・DVDの使用申込 ・広告デザインの作成・使用許諾の確認 ・コミュニティ誌への記事掲載打診	・作田、吉田が担当
9月	上旬	・市広報原稿の提出 ・ポスター等配布場所の選定	・原稿は吉田が作成 ・自治体への連絡は各市推進員が担当
	下旬	・ポスター等配布開始	・各機関実行委員が担当
10月	上旬	・コミュニティ誌の記事掲載依頼（最終）	・作田、吉田が担当
	下旬	・会場での上映機材の確認 ・当日の配布物など最終確認	・機材の確認は作田、吉田が担当
11月5日	開催		

広報活動は、各メディアを活用！



結果・・・



400名定員の会場に **700名** もの来場者が！
たくさんの方が認知症の実情を目にしてくれたが、
会場は大混乱に…

12月17日に再上演



急な再上演、しかも2回目であるにも関わらず600名近くの市民が参加

2回合わせて1,000名弱の市民が！

【2-2】 小学校・福祉学習

- 社協・認知症の人を支える家族の会が主として小中学校を対象とした福祉学習を実施
- 家族会から推進員に⇒「保護者も対象に参加できないか？」
- 家族会の協力で興味・関心のある保護者に周知
- H29.11.27市内の小学校5年生2クラスで保護者参加型の高齢者疑似体験（家族会・推進員担当）と認知症サポーター養成講座（メイト担当）
⇒保護者が企画した学年レクとして開催



児童・保護者とも楽しんで参加

今後は…

- 今回開催した小学校での行事継続
- キャラバンメイトなどが関係する小中学校への開催拡大
- 教育委員会との連携・協働を目標



5年生福祉体験高齢者疑似体験 認知症サポーター養成講座

2017年11月14日(火)

自分の体なのに、
思い通りに動かせないのは
自由行動のくせ
当たり前ではないんだな
と、体で知る時間は
とても貴重な経験でした。



認知症についても学習しました。これぞみんな「認知症サポーター」です。

※画像は千歳市内で別の日に行った福祉学習のものです。

【3】介護・認知症予防ネットワーク

H28年度

①地域資源を調査

⇒病院・教育機関・老人保健施設で無料の介護予防・健康増進教室を開催していると判明。

②各教室の特長を把握

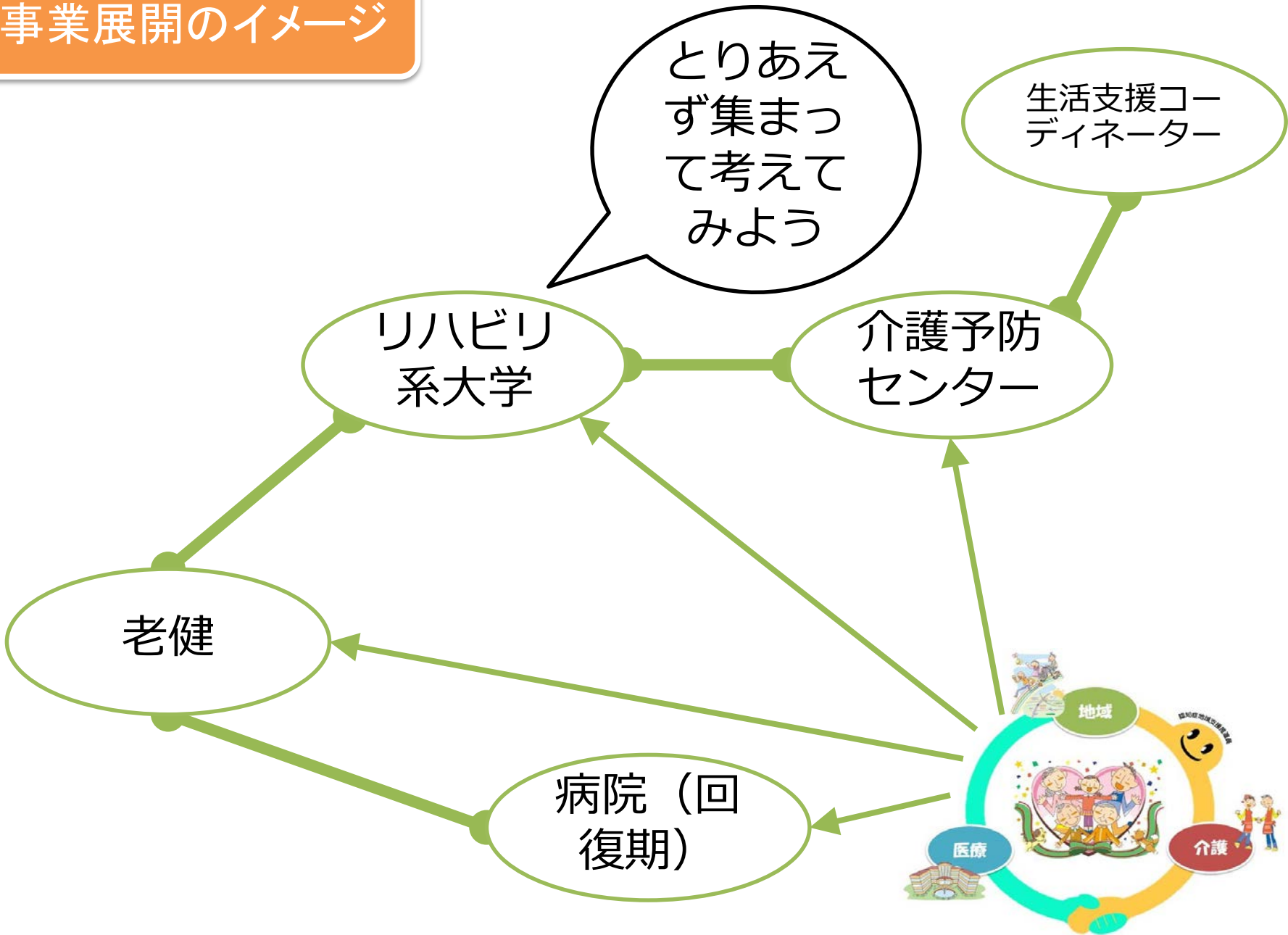
⇒各機関の利用者がおおむね異なっている

⇒どの機関も利用者が微減している



連携体制を構築して協力しては？

事業展開のイメージ



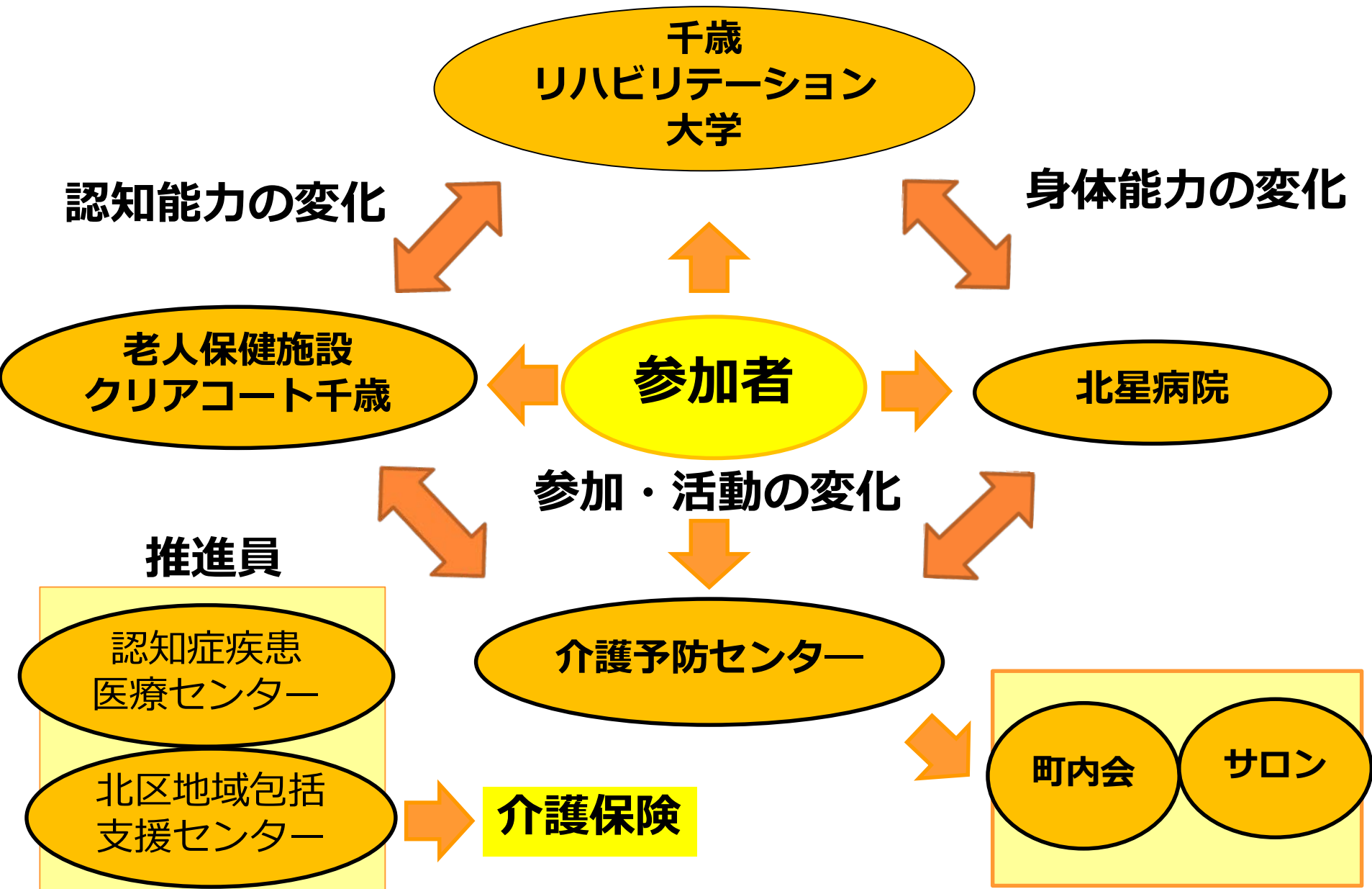
介護・認知症予防ネットワーク設立！



各教室担当者が集まり 課題・目的の共有

相互に活動を周知⇒全教室で参加者増加の成果

介護・認知症予防ネットワーク イメージ図



現在のひろがり

- 高齢者・認知症有病者の自動車運転・移動手段についての検討会（北海道）立ち上げに一部メンバーが参加
- 市全体で共通活用できる生活機能チェック・介入指標の検討
- ネットワークメンバーのさらなる多職種化（生活支援コーディネーターなど）
- 各事業所の、他の事業でも連携が開始



今後は…

- 介護・認知症予防で協働できる機関・企業の検討と協力打診
- 自動車運転に関する予防的活動・復帰対策・ケアなどでの事業展開を目標

【その他】自衛隊向け認知症サポーター養成講座

《経緯》

①千歳市ならではの認知症啓発は…？

⇒全道の推進員研修で他市から「自衛隊向け認サポしたい」

②千歳市は自衛隊が多い⇒千歳市で出来ないか？？

③石狩振興局に計画報告と協力の打診⇒振興局でも計画中！



協力して計画することに

《役割分担》

○振興局…陸上自衛隊方面総監部に依頼

○推進員…講座担当

○キャラバンメイト事務局…日程調整・資料準備



上記3団体で市内各駐屯地へ依頼

H29.4.6 東千歳駐屯地にて開催

170名以上の隊員が参加！！



市広報



北海道新聞



千歳民報

その後は…

- 航空自衛隊では、指導者育成教育の一環として開催（H30.3.8）
- 毎年定期的な開催を目標
- まだ実施していない駐屯地での開催を目標



千歳市の社会資源 (H30現在)

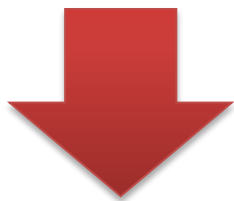




活動のまとめ

○推進員が主にしたこと

集まりの声かけ、会議場所の提供
アイデア提供・調整、各種調整



メインで動いているものがほとんどない！

でも活動が広がっていく！



活動の課題

○ **資源を見つける方法が一つではない**

⇒ 医療・介護・福祉分野に絞ると資源を見逃す

一見関係ないと思われる事が認知症の支援につながる

○ 『やりたい事』をどこまで通すかのバランスが難しい

⇒ お願いしすぎると相手に負担・我慢しすぎると自分に負担

お互いのメリット・お互いの負担の見極めが大事



今後の活動

つながった資源をさらに強化

⇒色々な資源とつながったおかげで、自分達にはないアイデアが手に入る

新規アイデアを基に、さらなる支援体制を

地域での啓発につながるような事業の企画・運営

⇒地域のリーダー、各資源の代表者と協力

(むしろ) **地域のリーダー『に』協力**

専門職の認知症理解の推進

⇒認知症以外でも訴求力の高そうなものを

最終的に、認知症をからめた現場に役立つ研修・検討会



全国の推進員の仲間へ

- 推進員に力がなくても問題なし！力がある人は必ず地域にいる（地域資源との連携）
- 色々な人と知り合って、やりたい事・必要と思う事をばら撒く（問題意識の共有）

頑張らないで

やらないよりやってみる

楽しくやってみる

みんなでやってみる



ご清聴

ありがとうございました